

学校図書館支援センター通信160号

令和3年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

文部科学省委託事業 推進協力校公開授業研究会

曾谷小学校 3年生 国語科「斎藤隆介の世界を味わおう」～モチモチの木から～



写真①



おすすめの作品を新聞で紹介しました。

11月5日（金）、曾谷小学校にて推進協力校公開授業研究会が行われました。講師には、帝京大学 教授 鎌田 和宏 先生、元百合台小学校 教諭 川添 陽子 先生、市川市学校図書館アドバイザー 小林 路子 先生 をお招きして、市川市内の管理職や教諭（司書教諭）、学校司書の方々が参加し、とても実りある研修となりました。

授業者の 竹内 光司 先生は、「モチモチの木」の学習を契機に、子供たちが多くの斎藤隆介作品を味わうことができるように、様々な手立てを講じていました。まずは、子供たちの興味関心が湧くように、写真①のような「斎藤隆介コーナー」を作りました。次に「花さき山」の読み聞かせを行い、斎藤隆介の世界へ子供たちを誘いました。こうした手立ての工夫によって子供たちは、自然に斎藤隆介の作品を手にとり、意欲的に読むことができました。一人の子供の読んだ作品数は、10冊を超えていました。新学習指導要領では、知識及び技能の内容に「読書」が加わりました。今回の単元「斎藤隆介の世界を味わおう」のように、学習の中で、意図的・計画的に読書活動を位置づけることは大切なことです。

公開授業では、読んだ作品の中から、自分がおすすめるお話を一冊選び、お互いに紹介し合いました。そして、斎藤隆介の作品のおもしろさについて意見を交わしていました。たくさんの作品を読んできたからこそ成立する授業です。

鎌田先生は、「自分の考えをもつことは、他者の考えに触れること（読むこと）・なぞること（読みを深めること）・かたどること（表現すること）であり、読むことは、自己の再発見である。」とおっしゃっていました。一つの作品だけでなく、複数の作品を読むことで、子供たちは、作品と向き合い、自分と向き合うことができるようになり、それらが読む力を育むことにつながっていきます。

学校図書館活用授業時間数調査(前期)の報告

今年度前期（4月～9月分）の学校図書館活用授業時間数調査の結果をお知らせします。小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校の合計が、18,973時間でした。昨年度は、約2か月間の休校があり、約3か月間の活用授業時間数の調査結果だったため、今年度の結果と単純に比較はできませんが、コロナ禍前の状況に戻りつつある結果となっています。今年度も全教科での活用がありました。特に、国語科、社会科、理科・生活科、総合的な学習の時間の授業時間数が飛躍的に伸びました。また、保健体育科での活用も増えています。

図書貸借システム（ネットワーク便）を利用した図書の移動冊数は、11月末までで、25,567冊です。

教科等	活用授業時間数	
	令和2年度	令和3年度
国語	7,203	12,034
社会	686	1,250
算数・数学	3	37
理科・生活	628	1,251
音楽	2	12
図工・美術	397	954
保健体育	3	149
技術家庭	46	54
外国語	138	280
総合	1,530	2,618
道徳	41	89
特別活動	135	79
その他	266	166
合計	11,078	18,973

図書館の窓から ～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～



本の帯コンテスト
図書委員会児童の作品

11月15日（月）～27日（土）に秋の読書週間を開催しました。今回の読書週間の取り組みは、朝読書、先生おすすめの本の紹介、先生方の読み聞かせや図書委員によるおはなし給食の読み聞かせ、読書ビンゴ、読書オリンピック、本の帯コンテストと盛り沢山の内容でした。期間中の休み時間には、低学年を中心に多くの児童が読書ビンゴにチャレンジしました。

また、先生おすすめの本の紹介や、本の帯コンテストの展示を見て、「これ読んでいい？」と尋ねる児童もたくさんいました。

こうした活動が、新しい本との出会いや読書の幅を広げるきっかけになると嬉しいです。

【市川市立国府台小学校 学校司書 上野 誓子】

市川市中央図書館 YA コーナー ～市内中学生 POP 展示～

市川市中央図書館では、中・高校生の皆様に公共図書館をさらに身近に感じてもらうために、市内の中学生が授業や委員会などで作成したポップを、YA コーナーに展示しています。ポップと一緒に本も並べていますが、書架に本が戻ってくると、すぐに次の方が本を借りていくほど、人気のコーナーとなっています。また、各都道府県や国を紹介した手作りガイドも展示しています。

第三中学校の作品展示を皮切りに中学校3校、高校1校の展示が予定されています。12月26日（日）まで展示されている福栄中学校のポップは、昨年度、2年生の国語科の授業で作成したものです。一人一人がおすすめの本についてポップを作成し、そのポップをもとにビブリオバトルを行いました。授業後に、

福栄中学校の学校図書館にポップを飾った際には、ポップで紹介した本の貸し出しが伸びたそうです。児童生徒同士がお互いに本を紹介することで、読書活動を促すきっかけとなるのではないのでしょうか。

1月からは、第一中学校、第七中学校の作品が展示されます。ぜひ市川市学校図書館の YA コーナーへ足を運んでいただければと思います。

YA コーナー POP 展示棚
ほとんどの本が貸出中です！



POP(ポップ)とは…

本の紹介カードです。カードの大きさは、はがきサイズ程度が一般的ですが、はがきよりも小さいサイズや大きいサイズなど発達段階に合わせて大きさを変えることができます。

ポップには、キャッチコピー、あらすじ、作品名、著者名、出版社名を書きます。「目を引くキャッチコピーにするにはどの言葉を使おうか。」など、一人一人が試行錯誤しながら取り組むことができます。

市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4
TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352

